

陸上運動部部便り

2010年8月号

七大戦

目次

1	七大戦	1
1.1	監督の言葉	1
1.2	主将の言葉	1
1.3	女子主将の言葉	2
1.4	試合経過	2
1.5	試合結果	14
2	2010年度部内5傑 2010.8.1現在	19
3	自己記録更新者一覧 2010.7.4~8.1	21
4	主務より	21
4.1	応援OB・OG紹介	21
4.2	行事予定	22
4.3	連絡先(慶弔等)	22

1 七大戦

1.1 監督の言葉

監督 藤田靖浩

男子は2位京大に一步及ばず4位。

女子は順当に5位。

今年度の七大戦は、午前11時に早くも気温35度を超えるという過酷なコンディションの中、愛知県瑞穂公園陸上競技場にて行われました。

結果は、男子総合が56点の4位(大阪大学にはダブルスコアの差をつけられたものの、2位京都大学との差は9.5点)、女子総合が6点で5位(4位京都大学と同点)。国公立戦以降の好調な流れを引き継ぎ、自己記録を更新した選手も多く、出場した選手は十分に力を発揮したものの、サブライズがなかったことや、中距離・フィールドで点数を積み上げられなかった結果、4位に甘んじることとなりました。

また、残念ながら優勝種目数は3年連続で0。男子は2~4位までが10点以内という混戦の中、この「優勝種目0」ということも、他大に一步及ばなかった大きな要因なのかもしれません。主な結果では、西田(4年)が100m、走幅跳で2位、三段跳で5位。青木(3年)が3000mSC、宮野(3年)が5000m、大澤(2年)が400M、佐々木(2年)が円盤投でそれぞれ2位、4×100mR、4×400mRが3位でした。女子は高山(4年)が走幅跳、丹家(2年)が走高跳、武田(1年)が砲丸投で、それぞれ3位となりました。

負けたとはいえ、今回は各学年がバランスよく結果を出してくれており、両りレーで表彰台に上がるなど、チームの底上げは確実にされてきている状況です。各自が今回の反省を活かし練習を積むことで、残る対校戦(*)、一橋戦と京大戦は必ず勝利し、来シーズンに向け良い流れを作っていきたいと思います。

最後になりましたが、炎天下の中わざわざ応援に来ていただいた皆様、本当にありがとうございました。

(*)9月の日本インカレには競歩の早川(4年)が出場します。

1.2 主将の言葉

主将 酒谷彰一

善戦、しかし力負け

過日愛知県は瑞穂陸上競技場で行われました七大戦におきまして、男子は56点を獲得し4位、3位の名大にはあと6点及ばないという結果となりました。

事前ランキングでは45点で5位という予想をされており、それを上回ったことは評価できるのかもしれませんが、これまでの対校戦で自

信を深め優勝を目指していた我々にとっては非常に悔しい結果となりました。

大会中は各人が持てる限りの力を出しましたが、いい意味での誤算があまりありませんでした。それは、大会前から試合中にかけてチームの勢いをつくることができなかつた私に責任があると考えております。当日ご足労を頂いた先輩方を含め、皆様のご期待に応えられませんでしたこと、大変申し訳ありませんでした。さて、シーズン前半を振り返ってみますと、主力選手が毎回きっちりと仕事をしてくれバランスの良い戦い方ができた一方で、下からの突き上げ、そしてエースのより一層の奮起が明確な課題として残りました。

非常に際どい争いになることが予想される京大戦に向けて、今後、よりしまった雰囲気の部活にしていきたいと思っております。

1.3 女子主将の言葉

女子主将 高山花子

総合5位。地力の無さを痛感する結果となりました。個人の結果を見ると、丹家(2年)が走高跳で3位、高山(4年)が走幅跳3位、武田(1年)が砲丸投で3位と得点しましたが、800mの浜松(2年)や走高跳の久保木(2年)が自己ベストを出す奮闘をするも5位に終わる等、惜しくも得点に手が届かない種目が多く、目標としていた表彰台には届きませんでした。多くが怪我を抱えた状態で臨む等、厳しい状況の中で各人実力は十分発揮しましたが、あと一步及ばない悔しさがそれぞれの胸の中に大きく広がりました。この悔しさを忘れずに、秋の対校戦に向け、レベルの底上げを目指し練習に励んでゆきます。当日は非常に暑い中、多くの先輩方に御声援を頂きました。本当にありがとうございます。今後とも、皆様の御指導・御支援に恥じぬよう、日々邁進してゆく所存です。よろしくお願い致します。

1.4 試合経過

トラック

9:30 男子 3000mSC 決勝

青木(3年)、渡邊駿(2年)の出場。七

大戦の最初の種目。朝一番にもかかわらず気温は34度を超え厳しい条件での試合となったが、青木には優勝を、渡邊には得点争いに絡む走りをしてチームに勢いをつけることが期待された。

前半は集団でのレースとなった。スタートから先頭に出た大阪大の山根は終始レースを引っ張り続けたが、2番手以降は順位がめまぐるしく入れ替わった。青木は3番手、渡邊は6番手のあたりとそれぞれ良い位置につけた。1000mの通過は青木が先頭から1秒遅れ3'07"。渡邊は3秒遅れての3'10"。集団から長く伸びた列へと、そして1位集団、4位集団へと変わる中、青木と渡邊は共に自分の位置をキープ。しかし1500mあたりから先頭が飛び出すと、青木はついていけずじりじり離されていく。それでも青木は粘りを見せ、2500mあたりからは3番手を引き離して、トップと7秒差の2位(9'28"13)でゴールした。渡邊は途中足首をひねった影響から2000m手前で4位集団から脱落してしまう。さらに順位を落とし、最後に切り替えて順位をひとつ上げるも一步及ばず7位(9'48"67)でゴールした。

この種目で5点を獲得したものの、今回の結果からはもうひとつ力が足りないことが明らかになった。その足りない力をつけるため更なる鍛錬が必要だろう。

9:50 女子 400m 予選

1組2レーンに杉本(1年)、2組2レーンに鈴木(1年)の出場。朝から気温も高く、厳しいコンディションの中でのレースである。新戦力の二人がどこまでやれるか、その走りに期待がかかる。

まずは1組の杉本。400mは初レースであり、少し緊張の色が見える。慣れないスターティングブロックに焦りが出たが、フライングをしてしまう。二回目のスタートでは安全に行き過ぎ、序盤から遅れをとる。遅れを取り戻そうと力んでしまったためか、終始固い走りの

ままレースは進む。後半粘りを見せるも、1'16"13の7着であった。

2組の鈴木はまずまずの飛び出しからスムーズに加速をし、前半から積極的なレース展開を見せる。しかし、怪我での練習不足が祟ったか、200mを過ぎたあたりから徐々にピッチが落ち、離されていってしまう。そのままフィニッシュし、1'06"73の5着であった。

両選手とも予選落ちという残念な結果となったが、選手層の薄い女子400mの中で、1年の二人が健闘したことは一筋の光明となった。

10:00 男子400m 予選

1組5レーンに大澤(2年)、2組6レーンに上松(2年)、3組5レーンに舩島(3年)の出場。今季自己ベストをマークし優勝も期待される大澤は、予選は楽に通過したいところ。怪我に苦しんだ上松は久しぶりの対校戦出場だが、最近練習も積めており、決勝進出の期待がかかる。舩島は今季はまだ本来の調子を取り戻せていないが、昨年後半には49秒の中盤を記録している。大澤とともに表彰台に上れるか。

まずは1組目レースが始まる。スタートして一気に加速した大澤は200mを先頭で通過する。しかし、内側のレーンから最大のライバルである九大の山下が後半追い上げてくる。大澤も粘ったが及ばず49"86の2着でフィニッシュした。続いて2組目がスタート。比較的リラックスして入った上松は300m付近まで中盤ぐらいの位置を走る。走りにはまだ余裕が感じられたが、ラスト100mで伸びずに51"21の6着でゴールした。最後に3組目。舩島は落ち着いた入りを見せ、ほぼ差のない状態でレースは進む。しかし250mから300m地点でスピードが落ち、後半の100mで失速してしまい、51"75の6着でフィニッシュした。

上松と舩島は予選落ち、大澤のみが決勝進出を果たした。決勝では是非と

も山下に先着してほしい。

10:25 男子110mH 予選

1組5レーンに増本(4年)、2組4レーンに酒谷(4年)、3組6レーンに江間(4年)の出場。増本は同組の大阪大の選手との競り合いが予想され、その選手に勝てるかが決勝進出のポイントだ。酒谷は数週間前から体調を崩しており心配だが、主将としての意地を見せてほしい。前日の100mで大幅にベストを更新していた江間は、今日もベストを更新し決勝進出するか。

まずは1組目のスタート。大阪大の選手は1台目のハードルを踏みつけて取り残され、増本は序盤から2番手をキープし続けた。ゴールまで危なげなくハードルを越えていき、そのまま15"53の2着でフィニッシュ。風が-0.5であまり良くないもののベスト更新となった。2組目。酒谷は4台目あたりで前へ出る。九大の選手と最後まで競るも何とかかわし、15"42の1着でフィニッシュ。何とかレースを纏め上げた。このとき風は-0.7であった。続いて3組目。江間は序盤から少し取り残されてしまう。落ち着いて前を狙っていきたいところだったが、中盤で他大の選手に並ばれた際にハードリングでミスをし順位を落としてしまった。15"87の6着でフィニッシュ。風は+0.8であった。

江間は、ミスをしたにもかかわらず記録はベストタイであり、悔やまれる結果となった。次回以降の試合に期待したい。酒谷と増本は両者着順での決勝進出。決勝レースへの期待が高まる。

10:50 女子100m 予選

1組5レーンに久保木(2年)、2組6レーンに鈴木(2年)の出場。国公立戦と同様、2人揃っての決勝出場を狙いたいところである。

まずは1組目。切れの良いスタートで、全選手がほぼ一直線に並ぶ中、久保木がわずかに前に出る。直後に大阪大の選手が頭一つ抜き出て2着争いと

なった。このまま競り合ってほしいところだが、中盤名大の選手がスピードを上げたため久保木は3着争いとなる。終盤は東北大の選手と競り合い、粘り強い走りでゴール直前でかわす形で競り勝った。タイムは13"29の3着でゴール。この時の風は+0.8であった。

続いて2組目。号砲が鳴り、全選手がほぼ一直線に並ぶも鈴木はやや後方からのスタートとなった。中盤、4レーンを中心にV字に並び、スピードに上手く乗れなかったのか鈴木は先頭から離されてしまう。その後も上位争いに参加することはなかったが、最後まで粘り強く食らいつくようにしてゴール。タイムは13"65で7着であった。この時の風は+2.0だった。

結果、久保木が着順で決勝へと進み、鈴木は残念ながら予選敗退となってしまった。

11:00 男子100m 予選

1組5レーンに西田(4年)、2組6レーンに春日(3年)、3組7レーンに菊池(2年)の出場。西田は国公立戦、四大戦に続き七大戦でも100mで優勝を飾ってほしい。春日は今季は上り調子。目標の表彰台に乗ることができるか。菊池も、レベルの高い七大戦で決勝進出を果たしてほしい。

1組目。号砲が鳴ると、西田はまずまずのスタートで序盤から牧川(京大)と共に周りとの差をどんどん広げ、中盤では牧川にやや遅れをとりながらも安定した走りでトップ争いを演じる。終盤は持ち前のスピードで落ち着いて牧川をかわし、10"82の1着でフィニッシュ。風は+0.6。

2組目。号砲が鳴ると、春日は素晴らしいスタートで一気にトップに躍り出るが、中盤、春日のすぐ後ろを5レーンの大家(大阪大)が追いかける接戦となる。終盤になると春日の懸命のラストスパートも及ばず、大家にかわされ2着でフィニッシュ。記録は11"03で、

風は-0.4であった。

3組目。菊池は持ち前のスタートで他の選手に後れを取らない走りを見せるが、加速区間で徐々に周りに離され5番手につける苦しい展開になる。その差は最後まで縮まらず11"27の5着でフィニッシュし、決勝進出ならず。風は+1.7であった。

菊池は怪我が続いた中での出場であり、今後練習を着実に積んで走りを磨いてほしい。西田と春日はともに自己ベストを更新して決勝進出。その勢いそのまま決勝では大暴れしてほしい。

11:20 男子1500m 決勝

東(3年)、鈴木(3年)、大内田(2年)の出場。気温も湿度も高いコンディションの中で全体的に記録が遅くなることが予想された。

スタート直後、他の選手との接触により東が転倒。集団から離れるが、なんとか最後尾に追いつく。大内田は集団の中盤あたり、鈴木は後半あたりにつける。1周するまでに早くも集団が2つに分かれる。このとき大内田は第2集団の6番手、鈴木は12番手、東は15番手。1周目の通過は3人とも65"前後。次の1周までに大内田、鈴木は若干順位を上げる。東は転倒により集中が切れたのか、順位を上げることができない。2周目のラップは大内田が64"、鈴木が65"、東が66"。1000mを超えたところで第1集団のペースがあがる。つづいて第2集団もペースがあがり、その勢いで大内田が第2集団の先頭に立ち全体として5番目につける。鈴木はペース変化に対応できずに順位を落とし、東も順位をあげられない。ラスト300m付近で大内田は後ろからついてきていた大阪大、京大、東北大の3人に抜かれてしまう。大内田もラストでさらにギアチェンジを試みるが、その3人に追いつけず、結局4'05"99の8位でゴール。鈴木と東は最後まで順位を上げることができず、鈴木は4'16"14の18位、東

は4'18"95の19位でゴールした。

大内田は今回入賞はしたものの、惜しくも得点には貢献できなかった。しかし、猛暑の中自己ベストを更新し、勢いに乗ってきている。鈴木は今回初めての対校戦であり、自分のレースができなかった。東は自己ベストよりも18秒遅く、不完全燃焼であった。今回の課題を分析し、次の一橋戦につなげてほしい。

11:40 男子400m 決勝

3レーンに大澤(2年)の出場。短距離で最初の決勝種目。外側のレーンを走る山下(九大)を倒して優勝を勝ち取りたいところだ。

スタート。大澤は、前半型の選手のため、スタートから積極的にいくのが持ち味だが、予選の反省を生かして、このレースは前半少し抑えめに入る。しかし、200mは先頭で通過し、後半勝負となる。250mを越えたあたりから、山下が一気にピッチを上げて追い上げ、大澤は2番手に下がる。その順位のままホームストレートに入り、ラスト100m。前半で溜めた力を振り絞って必死に食らいつこうとするが、若干の力みがあり差を縮められない。そのまま追いつくことはできず49"86の2位でフィニッシュした。

2位という結果はもちろん素晴らしいが、戦前からライバルと公言していた山下に勝てなかったのは非常に悔しい。来年こそは倒して優勝を飾ってほしいものである。

11:55 男子110mH 決勝

5レーンに酒谷(4年)、8レーンに増本(4年)の出場。この日は気温こそ高いものの、終始ちょうどいい追い風が吹いていてたまの向かい風が目立つ程度であり、コンディションは上々であった。酒谷はやはり体調が懸念される一方、向かい風の予選でベストを更新した増本には更なるベスト更新が期待される。

号砲が鳴る。酒谷はまずまずのスタートを切る。増本は1台目のハードルにぶつけるも、何とか立て直す。前2人が先行し、中盤以降は酒谷・増本を含めた3番手から6番手の選手4人が横一線になった。終盤は、6番手がやや遅れ、3番手が少し前に出たか。酒谷と増本は4、5番手となる。この接戦は10台目を越えた後も続き、最後は皆がトルソーを突き出す。目で見ると誰が表彰台に上れるかわからないほど微妙な差でフィニッシュした。結果は、酒谷が15"24で4位、増本が15"31で5位。風は-0.7であり、表彰台はならなかったものの、計5点を獲得した。

酒谷は体調不良にもかかわらず1日の試合を無難な結果で乗り切って、4年生の貫禄を見せつけ、増本も自己ベストを大きく更新した。表彰台に立つ者はいなかったものの、全体としてはかなり良い結果であったと言えるだろう。両選手とも東大記録更新を狙っている。これからの一橋戦、京大戦に期待が持てそうだ。

12:10 女子100m 決勝

8レーンに久保木(2年)の出場。東大からは1人のみが出場となった決勝なので、競り勝って点数を得てほしいところである。

号砲が鳴るが1回目は他の選手によるフライング。いま一度気持ちを落ち着かせて、予選と同じく好調なスタートを期待。2度目の号砲では、切れの良いスタートを見せてくれた。やはり全選手ほぼ横一列でのレース展開。ちょうど中央辺りの順位にいるだろうか。中盤は大阪大の選手がスピードに乗り他の選手を引き離し始める。久保木も先頭から離されてしまうが、負けじと横一列に並ぶよう食らいつく。終盤はそのまま離されていってしまうが、最後まで粘り強く精一杯走り抜けた。結果、タイムは13"30の7位でのゴール。この時の風は-0.9だった。

残念ながら7位でのゴールとなったが、走高跳にも出場していたことや、予選と異なり風が向かいとなったことを考えると、暑さが厳しい状況の中で予選と同じようなタイムで入れたのはよかったのではないが。

12:20 男子 100m 決勝

3レーンに西田(4年)、8レーンに春日(3年)の出場。予選で10"76を出し大会記録を更新した眞武(京大)が4レーンにいて、東大に優勝をもたらすことができるか。

号砲が鳴ると、横一線のスタートから加速区間で抜き出したのは西田、眞武(京大)、山崎(名大)の3名。中間疾走で壮絶な優勝争いを繰り広げ、西田はトップの山崎のすぐ後につけ懸命の走りを見せる。優勝争いは終盤までもつれ3名はほぼ同時にフィニッシュ。どの選手もフィニッシュ後、優勝を確信することができない程の僅差だったが、西田は惜しくも優勝を逃し2位で10"81。春日は決勝という舞台で走りが固くなってしまったか、本来の力を出し切れず残念ながら11"02の7位でフィニッシュ。風は+1.8であった。

満足いく結果は残せなかったが両者とも自己ベストを0"01更新する素晴らしい走りを見せてくれた。

12:30 女子 800m 決勝

浜松(2年)、増田(1年)の出場。35度超の厳しいコンディションだが、2人とも練習では安定した走りを見せており、得点、タイム双方の期待がかかる。

レースは全国レベルの鈴木(名大)、岩橋(京大)が初めから飛び出し、浜松は3位集団を形成、増田はそのやや後方につく展開。200mの通過は浜松は33"0、増田は35"2。そのまま浜松は5番手で400mを67"8、増田は73"3で通過。500m付近で3位集団から2人が飛び出す。浜松も追いかけてようと懸命に走るが、前との差は一向に詰まらず、そのまま2'22"01の5位でゴールとなった。

増田は後方から落ち着いて順位を上げた。ホームストレートでは一気に2人をおかわして2'31"63の8位でゴールイン。

厳しい暑さにも関わらず浜松はベスト、増田もベストに近い好走であった。得点は獲得できず、他大のレベルの高さを痛感する試合になったが、2人とも確実に力をつけており、今後更に上のレベルでの活躍が期待される。

12:40 男子 800m 予選

1組6レーンに渡邊(4年)の出場。スタートでは集団の3,4番手につけ、前を伺いながら400mを58"で通過。残り300mを過ぎたあたりからペースが上がり、渡邊も3番手に順位をあげるが、少しきつそうな走り。それでも残り100m付近でスパートを掛けて、最後は後続を離してフィニッシュ。1'59"17の3着に入り、プラスの2番手で拾われ決勝進出を果たした。

2組3レーンに近藤(4年)の出場。序盤は後方から前を伺うが、ホームストレートでの位置取りが悪く、集団の最後尾で1周目は59秒台の通過。バックストレートで近藤は一気に3人を抜いて4位に順位を上げるが、既に前の3人とは大きく離され、そのまま近藤は2'00"30の4着でゴールイン。決勝には進めなかったが自己ベストであった。

3組7レーンに園部(4年)の出場。スタートから積極的にとばし先頭に立つが、バックストレートではペースを一気に落とし、集団に呑み込まれる。400mは4位で60"の通過。園部は周りにポケットされて位置取りに苦しむ。残り200m付近で一気にスパートがかかるが園部は反応できず、他に大きく離されそのまま2'09"25の7着でフィニッシュ。園部自身は不甲斐ない走りとなってしまったが、スローペースを作ったことが渡邊の決勝進出に繋がった。

13:00 男子 400mH 予選

1組4レーンに赤木(4年)、2組6レー

ンに酒谷(4年)、3組4レーンに高木(3年)の出場。名古屋の夏らしく、湿度の高い、選手にとっては良いとは言えないコンディション。主将の酒谷は午前中に110mHの予選・決勝にも出場しており、どれだけの力が出せるか分からない。前回の四大戦で不調だったハードルチームの威信を取り戻すべく、レースに挑む。

赤木はひざの怪我の影響からか、入りからかなり抑えて入っているが、中盤のハードル裁きは流石の2文字。本人が課題としていた後半のハードリングは出来てはいるものの、10台目で歩数が合わず、ラストで競り勝つことができなかった。記録は57"00の4着。続いての酒谷は不調そのもの。ハードリングは相変わらず上手いが、加速すべき部分で伸びない。110mHの影響もあるのか、普段のキレが終始見られなかった。ラストスパートにかけるものの、10台目を越えた所で失速、悔いの残るレースとなってしまった。記録は58"95の3着。高木は始め慎重な入り。周りの追い上げる中、前半300mは淡々とマイペースに走り続けた。しかし、前半の不安な走りから一変、ラスト100mでは急激にスピードを上げ、他の選手を華麗に抜き去り、1着でゴール。記録は56"41であった。

結果的に着順で高木、タイム取り2着で赤木が決勝にコマを進めることになった。

13:30 男子200m 予選

1組2レーンに増本(4年)、2組7レーンに真木(2年)、3組3レーンに八子(1年)の出場。太陽光線が激しく降り注ぐ午前と変わって、立ち込める雲が暑さを和らげてくれた午後。昨年終盤でばてて8位だった増本、どれだけ体力温存できるかが予選での鍵だ。真木は、下馬評1位の山崎(名大)にどこまで喰いつけるかが勝負所。八子は左ハムに不安を抱えての出場だが、ベストを尽く

したい。

まず1組目がスタート。前半戦、増本は3レーン真武(京大)に喰いつくいい走りを見せる。しかし直線に入ってから思うようにペースを上げられず、依然真武との差は詰まらない。そして5着の22"59でゴール。風は+1.4であった。続いて2組目の真木。スタート直後、うまく加速していく山崎との差も悪くはない。しかし、カーブを超えて5レーン有村(阪大)の姿が目飛び込む。真木、有村を意識したのか動きが少し硬くなる。そして思うように腿が動かず、少し差をつけられ、22"81の3着でゴール。風は+0.8であった。最後は3組目のスタート。八子は左ハムをかばった自重したコーナリングに見える。また、他大のペースも速くなかなか追いつけない。そしてカーブを抜けたあたりで、少し疲れたのかややピッチが落ち8着の23"81でゴール。風は-0.2であった。

結果、決勝に誰も進出できなかった。瑞穂の暑さや他大の番狂わせなどの不確定要素も大きな痛手だったが、ここで得られた課題はかなり大きなものだろう。次の対校戦までに時間はあるのでじっくり改善していきたい。

14:00 女子3000m 決勝

鈴木(3年)、杉浦(2年)の出場。鈴木は先日の四大戦で自己ベスト、杉浦も好記録を出しており、活躍が期待される。しかしこの日は日差しが強く、気温も35度を超えて非常に厳しい環境での試合となった。

レースは、スタートして間もなく名大、やや遅れて大阪大の選手が飛び出し、その後方に3位集団が形成される展開となった。杉浦はこの集団に入り、鈴木は北大の選手とともに集団の20mほど後方につける。そのまま杉浦は3'29"、鈴木は3'35"で1000mを通過。積極的なペースでの入りを見せた。しかし、暑さもあってその後は落ち着く。鈴木は

1600m 付近で杉浦の前にたち、キロ4分弱のペースを守ってレースを展開。ラストではスパートを決めて1人をおかわし、11'30"05の8位でゴールした。一方、序盤のハイペースが祟ったのか杉浦は徐々に順位を落とす。前に出た鈴木になんとかつこうとする粘りを見せたが叶わず、その後は一人旅の苦しい走りとなる。最後は11'51"09の11位でゴール。猛暑にやられた形となった。

両選手ともに積極性が光ったが、真夏のレースということで苦しい部分も多かった。この経験を力にかけて、今後のさらなる飛躍につなげてほしい。

14:20 男子4×100mR 決勝

3レーンに増本(4年)-西田(4年)-真木(2年)-春日(3年)のオーダーで出場。今季のリレーチームは関カレ以外では無敗と勢いづいている。西田と春日は先に行われた個人種目の100mで自己ベストを出しており、41秒台中盤での優勝が期待される。課題は、今まで「一度も完璧だったことがない」というバトンパスだ。

号砲が鳴ると、増本がしっかりと加速していく。ほぼ一直線のまま、流れるような見事なバトンパスで2走の西田に渡る。エース西田はそのままぐんぐんとスピードに乗り、順位を上げて真木にバトンをパスした。ここも、ロスの少ない美しいバトンパスであった。個人種目では無念の予選敗退だった真木は、ここでも本調子ではないのか、順位を上げることができずに3位集団の中でバトンを春日に渡した。僅差である。次期主将としての意地を見せるべく必死に走る春日であったが、前をとらえることはできず、42"26の3位でフィニッシュした。

先行した京大と名大は41秒台後半だったため、目標としていた41秒台中盤を達成していれば優勝できていたと考えれば悔やまれるが、この借りは京大戦で返してくれるだろう。バトンパス

は向上している。あとはメンバーそれぞれが最高の走りをするだけだ。

14:40 男子400mH 決勝

1レーンに赤木(4年)、6レーンに高木(3年)の出場。決勝で一人の欠場が出ており、これで東大の得点は確定したが、予選で散った酒谷の屈辱をも晴らすべく、二人で大量得点を狙う。

赤木は予選同様慎重な入り。しかし予選とは打って変わって中盤にかなりの伸びが見られた。ラストも根性で競り勝ち、フィニッシュ。記録は56"40の4位。予選からタイムをきっちり伸ばしてきたあたり、流石と言える。一方高木は、勝ちを意識してか、始めから攻めていく。中盤から300m付近までは予選同様、安定した走りを見せ、上位争いに食い込んでいた。しかし、予選の時に見せたスパートにはキレ味が無く、結局6位でゴール。記録は57"60であった。

合計4点を獲得した。赤木は「1レーンというのが自分に味方した」と言っていたが、まさにその通りの結果。高木は「前半は外側のレーンにつられ、飛ばしてしまった」そうだ。結果的には四大戦での汚名返上とはなったが、それでも表彰台に誰も登れなかったのは悔しさが残る。これからのハードルチームの盛り返しに期待せざるを得ない。

15:00 男子800m 決勝

4レーンに渡邊(4年)の出場。予選では少し苦しい走りとなりあわや予選落ちとも思われたが、タイム的にはまだ余裕が伺え、800系のエースとして得点はもちろんのこと、表彰台にも期待したい。

スタートは全体的にハイペースとなる。渡邊は集団の中盤につけて200mを4番手で通過。先頭とは少し距離があるが、まだ走りには余裕が伺える。ホームストレートで前との差を詰めて400mは55"7で通過。しかし、2周目から徐々に前との差が広がり、バックストレート

で上位3人がスパートを掛けると渡邊は反応できず、4位集団に残されてしまう。それでも渡邊はラストは必死にスパートをかけて混戦となった4位争いを制し、1'57"07の4位でゴールイン。

今回は全体的にレベルが高かったと言えども、表彰台に登るという目標を達成できず、渡邊にとっては悔しいレースとなったであろう。これをバネにして京大戦では2位に入賞した大川(京大)にリベンジしてもらいたい。また、対校選手3人とも4年生という点からも下級生の奮起に期待したい。

15:20 男子5000m 決勝

宮野(3年)、東(3年)、山田(3年)の出場。気温が35度近くまで上がり猛暑の中での試合となった。7月3日の四大戦5000mで優勝した宮野は好調を維持しており、今大会でも優勝を視野に入れている。一方で午前中に行われた1500mで転倒した東、怪我明けで久しぶりの対校戦となる山田には不安要素もあるが、上位争いを期待したい。

スタート後、宮野、山田は集団の前方に、東は集団の後方についたが、宮野は400mから先頭に出た。1000mを3'03"で入ると、今度は小山(京大)が先頭に出る。宮野がハイペースで集団を引っ張るのを嫌ったか、小山は1000mから2000mを3'12"というスローペースに抑えた。これを受けて宮野が再び先頭に立ち、ペースを上げる。この間に東は集団後方から上がってきており、先頭から少し遅れつつも集団の真ん中あたりで粘る山田と同じ位置につけていた。3000m付近で小山が集団から抜け出すのが、後続を突き放すことはできない。このとき宮野、東は先頭集団に残ったが、山田が集団から遅れ始めた。レースが動いたのは3600m過ぎ。宮野が果敢にスパートすると集団が崩れ先頭が宮野、小山、柿本(京大)、酒井(大阪大)の4人に絞られる。4000m過ぎで酒井が遅れ、残った3人が次々と先

頭に出て急激にペースが上がっていく。ラスト1周で小山がスパート、柿本がこれに続き、宮野は少し出遅れる。宮野は残り300mで柿本を抜いたが、その後小山との差を詰め切れず15'09"65の2位でゴール。先頭のスパート合戦に対応しきれなかった東は15'55"88で11位、また山田は16'08"46の14位であった。

優勝こそ逃したが、序盤から終盤まで自分でレースを作った宮野は大きな成果を得たと思われる。また今回不本意な結果に終わった東、山田の2人には今後の活躍に期待したい。

15:50 女子4×100mR 決勝

酷暑の七大戦も終わりに近づいた。8レーンに鈴木(2年)-久保木(2年)-武田(1年)-高山(4年)のオーダーで出場。ここまで100m、400mで無得点の女子短距離チームに得点の期待がかかるが、ほとんどのメンバーが今シーズンに故障を経験しており、不安も残る。

まずは、1走の鈴木が良いスタートを切る。一番外側のレーンのため前が見えない中必死に走り、バトンゾーンに入る。久保木がいいスタートを切るが、少し遠く、鈴木は一度バトンを空振りしたもののなんとかつなぐことができた。各大学のエースがひしめくこの区間では、ここ2週間ほどハムストリングスの不安で練習できなかった久保木が懸命に走るも、内側のチームがどンドンと久保木の背中に迫る。ここで3走武田へのバトンパスだが、これも遠い。スピードを落としてバトンを受け取った武田はうまい走りを見せるものの、本職でないスプリントではやはり力が足りなく、5番手でバトンをアンカーの高山に渡した。この時点で前は遠く順位を上げるのは難しいか。それでも高山は最後まで前を追い続け、そのままの順位でゴールした。52"79の5位だった。

またしても得点を逃した女子チーム

には、課題が浮き彫りとなる結果だった。薄い選手の層は仕方ない感があるが、その少ない選手が故障しては対校戦で大きな障害となる。基礎から体を鍛え上げ、故障の少ない選手へと成長することが今後の目標となりそうだ。

16:00 男子4×400mR 決勝

七大学を締めくくる男子のマイルである。東大は6レーン。春日(3年)-脳島(3年)-上松(2年)-大澤(2年)という走順。直前まで行われていた三段跳の表示によると、ホームストレートにコンスタントに追い風が吹いていたようである。

全チームが一斉にスタート。春日が一瞬遅れたように見えたが、飛び出しの角度はよく、直線に入るときにはあまり差はなかった。北大と大阪大に徐々に離されてしまい、3番につける。二走の脳島はバックストレートで順位を落とし、名大と横並びで5番でバトンを上松に渡す。上松も安定した走りをみせるが、大阪大がスパートをかけて抜かされ、3位グループの最後尾の6番でのバトンパスとなった。アンカーの大澤も、第4コーナーまでは順位を一つあげるにとどまり、悪い結果を予想させたが、最後の100mでは大阪大と名大を一気に抜き去り、3位でフィニッシュした。記録は3'22"50であった。

東大は前半で順位を落とし、最後の直線で追い抜く、という展開が多かった。そのため、他大と横並びでバトンを渡す時には外側でせざるを得なくなり、そこから第二コーナーまで不利になる点が見受けられた。前半の勝負力をつけるべきだろう。また、このチームは全員が2年か3年という、七大学で最も若いチームでもあり、来年につながるレースとなった。

フィールド

9:30 女子走高跳 決勝

久保木(2年)、丹家(2年)の出場。今

季のベストでは北大の選手が一人とびぬけ、5人が1m45で横並びという状況。うまくいけば2人とも入賞可能であり、女子では最初の決勝種目となるこの種目で大量得点を挙げて勢いをつけたいところ。愛知出身で瑞穂での経験も豊富な2人に期待がかかる。

久保木は1m40から跳躍を開始するが、1跳目を失敗してしまう。練習跳躍でも失敗が見られ、調子が良くないかとも思われた。しかし、2跳目でこの高さをクリアすると調子を取り戻し、続く1m45も1跳目で成功。1m48は1跳目、2跳目を失敗したものの、3跳目で成功し自己ベストを更新する。1m51はクリアならず、久保木はこの後すぐに100m予選の出場が控えていたため、試技が終了してすぐにピットを後にした。

丹家は1m40から跳躍を開始。1m45までを1跳目でクリアする。しかしこの日あまり調子が良くないようで、助走が悪くバーすれすれの跳躍となっている。1m48は1跳目を失敗。2跳目でなんとか成功するが、続く1m51は失敗に終わった。1m51の2跳目の跳躍は悪くはなかったものの、わずかにバーを掠りおしくも失敗となった。

結果、丹家が1m48で3位、久保木が1m48で5位、獲得点数は2点であった。久保木は得点こそできなかったものの、足に不安があったうえ、四大戦以来練習を出来ていないという状況で自己ベストを更新し、申し分ない結果であったと言える。丹家は大学ベストではあったものの、専門種目で不甲斐ない試合しかできず、まだまだ課題を実感させられる結果となった。今季の女子走高跳の対校戦は七大学で最後だが、来シーズンに向けて練習を積んでいってほしい。

9:30 男子棒高跳 決勝

原(4年)、土居(3年)、松原(1年)の出場。朝から高温多湿の厳しい条件で、

風は追ったり向かったりといった条件のもと、器具のトラブルで約30分遅れの試合開始となった。

松原は、中学での自己ベストを上回る開始高さの3m20からの跳躍。1、2跳目共に、うまく体をコントロールしつつも、グリップの高さが足りず失敗。3跳目では、更に鋭い踏切を見せ、一瞬バーを越えるかと思われたが、体を擦って失敗し、試技を終えた。400mHが本職で、練習を始めて間もない松原だが、運動能力の高さを感じさせ、今後が期待できる跳躍を見せた。

土居は3m60からの跳躍。右肩を痛めている土居は、突っ込みを恐れて1跳目から硬い跳躍。高さは十分だが、アップライトが足りず1跳目を失敗。2跳目も同様に失敗した。更に3跳目は、跳躍の途中で右手が離れ、マットに投げ出され失敗した。

同時出場の円盤に出ているため、原も3m60からの跳躍。1跳目は足が合わず失敗するが、2跳目にはわき腹でバーを落とすも、体はバーを越える惜しい跳躍を見せる。しかし3跳目、うまくクリアランスに入れずに失敗してしまった。

他校にも記録なしが続出して、入賞ラインが3m40まで下がったため、土居、原が記録を残せなかったことが非常に悔やまれる結果となった。京大戦に向けて、実力の底上げはもちろん、悪条件下でも力を発揮できる濃密な練習が課題となった試合であった。

10:00 男子円盤投 決勝

原(4年)、佐々木(2年)、片山(2年)の出場。投擲最初の種目であり、主力級の3人の出場とあって、大量得点が期待されていた。

原は1投目と2投目は振るわなかったが、3投目で30mラインの近くまで持って行って記録は29m23。残念ながらエイトに食い込むことはできなかった。片山は調整はうまくいっていたが、

本番試技では動きが硬く、1投目で思うように投げられなかった。3投目でなんとか31m11で9位とまとめたが、こちらもエイト漏れという不本意な結果に終わった。佐々木は練習投擲で40m近くまで飛ばし、調子の良さを感じさせたが、試技に入ると片山同様、動きに硬さが目立った。結局ライバルである、東北大学柳澤からトップを奪うことなく6投を終え、38m63で2位。またしても柳澤に敗れた。

七大戦という晴れ舞台でこの種目、力を遺憾なく発揮できた選手はいないのではないだろうか。悔しさをバネに次なる目標に向け、努力を重ねてほしい。

11:00 男子走幅跳 決勝

西田(4年)、飯島(1年)、沢登(1年)の出場。強い日差しと高気温の状況下、助走距離が伸びてしまう危険性も大きいため三選手とも丁寧に足合わせを行う。

西田は多種目出場、特に100m予選とは完全に競技の時間が重なってしまうという悪状況。少しでも跳躍回数を抑えたいが、思いのほか助走が伸び二本連続してファールを喫す。そのため三本目はかなり余裕を持って跳び、6m86。無事エイト入りを果たす。そして四本目の跳躍では、自己ベストの7m18(-0.7)を記録。五、六本目はそれ以上の大ジャンプを見せるが両方とも惜しくもファール。トップには及ばず2位で終わる。沢登は助走が安定せず、足が合わずに苦しむ。一本目は逆足、二本目は30cmほど板に届かないもったいない跳躍で5m65。三本目も足が合わずに21位に終わってしまう。飯島の一本目の跳躍は6m62(+1.0)と彼本来の実力には及ばないがまずまずの記録。しかし二本目、三本目で記録を伸ばすことが出来ず、ぎりぎりのところでエイトを逃し、9位に終わる。

以上によりこの競技による我が校の点数は5点であった。今季絶好調の西

田の活躍は期待通りであったが、一年生二人の台頭も目覚ましい。次の一橋戦、京大戦や来年以降の戦いにも非常に期待を持たせてくれる素晴らしい試合であった。

11:30 男子砲丸投 決勝

原(4年)、片山(2年)、佐々木(2年)の出場。天候は晴れで気温も高く、蒸し暑い中での試技であった。持ち記録から考えると10m70は飛ばさねば8位に入ることもできない厳しい戦いであったが、佐々木を筆頭にどの選手も七大戦の勢いに乗って記録を出し、1点でももぎ取ろうと気合いに満ちていた。

原は多種目出場の疲れがでてきたのか、思い通りの投擲ができず、2投目に8m69を投げ3投目はファールで15位だった。片山はなかなか砲丸の芯をとらえておしきることができず、2投目に9m14を投げるが3投目は7m98で13位で試技を終えた。佐々木はしっかりと自分の仕事をこなし、回転投げで2投目に9m92を投げ8位で折り返す。さらなる大投擲を狙っていったが、惜しくも3投ともファールとし、結果8位であった。

結局1点も取ることができなかったのは、非常に悔しい。来年こそはしっかり点数を稼いでリベンジしようと思う。

12:30 女子走幅跳 決勝

高山(4年)と武田(1年)の出場。高山は6月末に腰を痛めて以来初めての試合であり、強行出場とも言える中でどこまで跳べるかが注目される。武田は本職砲丸投を控えており、1本目にいかに記録を出し、体力を温存出来るかに勝負がかかる。

男子走幅跳が長引き、炎天下の中1時間以上遅れて競技が開始された。高山は1本目、助走にスピードが乗らず4m80と振るわない。3本目に5m04を跳ぶが、直後の試技では踏切時に腰が抜け、同記録で4位のまま最終跳躍を迎える。6本目、スタンドに手拍子を求

めると、リズム良く走り始め、助走にスピードが乗る。逆転となる高い跳躍を見せ、この時に記録した5m13で3位となった。武田は1本目、勢いのある助走から4m50を飛ばす。2本目はやや力んだか、4m29と記録を伸ばすことが出来なかった。武田は砲丸投の試技が開始されるため、ここで試技を中断した。結果は4m50で8位であった。

高山は出場も危ぶまれる中で、最終学年の意地を見せたということが出来るだろう。武田も記録は平凡であったが、跳躍のセンスを強く感じられる選手である。今後も2人で切磋琢磨してゆき、フィールドパートを盛り上げてくことが期待される。

12:30 男子走高跳 決勝

地子(5年)、坂本(4年)、原(4年)の出場。昼過ぎの暑い中、大勢の東大OBに見守られながら競技は開始された。

原は最初の高さである1m60で失敗して記録なしにおわってしまった。ただ最近の練習の成果が見える良い跳躍で、今季のうちに1m60は跳べそうだと期待させてくれた。来年は走高跳の出来る選手が原だけになってしまうので頑張ってもらいたい。最近食事に気を使い大幅に体重を落として臨んだ地子は1m65から競技を開始し、1m75までをミスしながらも成功する。続く1m80は1回で跳べれば得点のチャンスもあると気合を入れて挑み、その日一番の跳躍で見事成功した。1m85はクリアできなかったが地子はこれで自己ベストを更新した。坂本は調子が乱れていて1m75、1m80とミスしながらも危なっかしくクリアした。1m85も助走の勢いをうまく上に向けることが出来ず2回失敗してしまう。試技数差で地子に負けるのだけは嫌だったという坂本、3回目も決して良くはない跳躍だったがパーにかすりながらも成功した。これには応援席も盛り上がった。結果、坂本が1m85の6位で1点を獲得した。

13:00 男子やり投 決勝

原(4年)、千葉(4年)、山東(2年)の出場。気温が35を超える炎天下で試合は行われ、大変厳しいコンディションとなった。

原は走高跳と試合時間がかぶったこともあり、練習投擲もできないまま本番を迎えることになる。高跳びの疲れと集中力が切れていたことにより、1投目は33m80という自己ベストとは程遠い記録であった。続く2投目、3投目でも集中力を取り戻すことができないまま迎えることになり、記録は35m09で19位という満足のできない結果に終わった。千葉は記録的には得点を期待できたが、怪我のために手術した肘がまだ完全に回復しておらず、普段から十分に練習も出来なかった。1投目は44m17。続く2投目はファール、そして3投目でも大きく記録を伸ばすことが出来ず44m64で14位という結果であった。大きく期待されていただけに残念な結果であった。山東は技術面でいろいろ不安が残るものの、1投目で39m85と自己ベストを約6mも更新した。しかし続く2投目、3投目では記録を伸ばすことが出来ず、順位も18位に終わった。

原には1種目1種目を大事にして、しっかり集中して試合に臨んで欲しい。また千葉には一刻も早く怪我の回復を願い、山東には主に技術面の強化を図ってさらなる向上を目指して欲しい。

14:00 女子砲丸投 決勝

岩上(2年)、武田(1年)の出場。天候は晴れで気温も高く、少し時間を繰り上げての開始となった。大会記録を持つ名大の選手が一人とびぬけており、残りの選手で2位以下を争う状況。武田には自己ベスト更新とともに入賞の期待がかかる。

岩上は専門外の種目に出場となったが、対校選手に決定してから地道に練習を重ねて臨んだ。その成果を発揮したいところだったが、コンスタントに自

己ベスト付近へ砲丸を飛ばすも、ファールに苦しみ3投までで記録なしに終わった。武田は1投目で8m57を投げたものの、リリース時にうまく砲丸を放せずなかなか記録を伸ばすことができない。結局1投目が最高記録となり8m57の3位であった。

今後も対校選手として試合に出場していくであろう岩上には、自分の専門種目を尊重しながら少しずつ練習を続けてほしい。記録的には不本意な結果に終わった武田も、試合内容から自分の弱点や課題を見極め、1か月後の一橋戦に生かして欲しい。

14:30 男子三段跳 決勝

廣瀬(5年)、西田(4年)、定金(4年)の出場。夕方になって日差しも和らぎ、適度な追い風が吹いているという最高のコンディションであった。3人ともベスト8に残れる実力を持っているので、高得点が期待された。

廣瀬は1跳目で13m69を跳んだが、2、3跳目では記録を伸ばせず惜しくも10位に終わった。西田は既に3種目出場後であったため体力の消耗が心配されたが、3跳目までに13m90を跳び、ベスト8に残る。残り3回の試技では自己ベストとなる14m26を記録し、5位に滑り込んだ。定金は怪我が完治しておらず短助走での跳躍を行った。1跳目はファールであったものの、回復の兆しを見せる非常に良い跳躍であった。最終結果は13m38で12位であった。

今年の七大戦も前年同様、大阪大に表彰台を独占されてしまった。来年こそは表彰台に上られるような選手が出てくることを期待する。また今年度で学部を卒業する廣瀬、西田、定金の3人は、最後の京大戦で悔いの残らぬ戦いができるよう夏場の鍛錬に励んでほしい。

14:30 男子ハンマー投 決勝

千葉(4年)、今村(2年)、河本(1年)の出場。太陽の日差しが強く照りつけ選手たちを蝕む厳しいコンディション

の中、競技は開始された。

千葉は肘の痛みのため練習ではやり投ができず、得点を期待できるハンマー投に専念していた。その結果1投目は32m59という怪我の影響を感じさせない記録となった。さらに2投目では34m23の自己ベストをマークし、見事4位で後半につながる事ができた。しかし4投目以降は記録を伸ばすことが出来ず、結局4位のまま競技を終えることとなった。今村はハンマーに慣れていないせいもあり、1投目はファール。続く2投目では18m95をマークするも練習の成果が出た記録とは言えなかった。3投目では22m09と大きく記録を伸ばすも、結局13位に終わった。河本はハンマーを始めてから間もないが、普段からよく練習しており、その成果に注目が集まるところであった。投擲が始まると、つい最近ハンマー投を始めたとは思えない貫禄で1投目に22m59をマークした。しかし2投目以降さらに記録を伸ばすことが出来ず、11位に終わった。

今後への見通しがついたという意味では有意義な試合であった。しかし、3人とも試合前に慌てて練習するのではなく、普段からハンマー投を練習しレベルアップを図っていただきたい。

1.5 試合結果

第61回全国七大学対校陸上競技大会

第21回全国七大学対校女子陸上競技大会

於 名古屋市瑞穂公園陸上競技場 (H22.8.1)

男子 100m 決勝 (+1.8)

1	山崎雄大	名大	10"79
2	西田昂広	東大	10"81
3	眞武俊輔	京大	10"85
4	信時盛人	大阪大	10"88
5	大家賢志郎	大阪大	10"90
6	牧川真央	京大	10"92
7	春日慶輝	東大	11"02
8	伊藤亮輔	東北大	11"16

男子 100m 予選 (2着 + 2)

1組 (+0.6)			
1	西田昂広	東大	10"82
2組 (-0.4)			
2	春日慶輝	東大	11"03
3組 (+1.7)			
5	菊池典晃	東大	11"27

男子 200m 決勝 (+4.2)

1	山崎雄大	名大	21"46
2	飯田謙	北大	21"78
3	信時盛人	大阪大	21"96
4	有村孝	大阪大	21"96(着差あり)
5	水野敦	名大	22"08
6	鈴木一輝	東北大	22"13
7	眞武俊輔	京大	22"29
8	片岡裕貴	名大	26"86

男子 200m 予選

1組 (+1.4)			
5	増本健太郎	東大	22"59
2組 (+0.8)			
3	真木伸浩	東大	22"81
3組 (-0.2)			
7	八子基樹	東大	23"81

男子 400m 決勝			
1	山下康平	九大	49"23
2	大澤渉	東大	49"86
3	高林佑輔	東北大	49"97
4	高橋勇理	大阪大	49"98
5	三上兼太郎	北大	50"06
6	松田裕樹	北大	50"63
7	上野雅史	大阪大	50"72
-	中川裕規	名大	DNF

男子 400m 予選 (2着 + 2)			
1組			
2	大澤渉	東大	49"86 Q
2組			
4	上松祐太	東大	51"21
3組			
6	脛島一樹	東大	51"75

男子 800m 決勝			
1	山田佳祐	大阪大	1'54"13(NGR)
2	大川亮	京大	1'55"16
3	井上博人	名大	1'56"14
4	渡邊拓也	東大	1'57"07
5	早川慎一	名大	1'57"83
6	水元惟暁	京大	1'58"52
7	本間亮太	東北大	1'59"10
8	辻川優祐	東北大	2'01"40

男子 800m 予選 (2着 + 2)			
1組			
3	渡邊拓也	東大	1'59"17 q
2組			
4	近藤堯之	東大	2'00"30
3組			
7	園部竜也	東大	2'09"25

男子 1500m 決勝			
1	小山俊之	京大	3'54"84
2	村西研郎	名大	3'57"56
3	濱田洋平	名大	3'58"56
4	酒井健	大阪大	3'59"28
5	山根裕樹	大阪大	4'02"77

6	坂本剛	京大	4'04"11
7	荒川和哉	東北大	4'04"21
8	大内田弘太郎	東大	4'05"99
18	鈴木俊輔	東大	4'16"14
19	東大貴	東大	4'18"95

男子 5000m 決勝			
1	小山俊之	京大	15'08"32
2	宮野健司	東大	15'09"65
3	柿本悠貴	京大	15'16"06
4	酒井健	大阪大	15'21"03
5	村西研郎	名大	15'24"43
6	西村太志	大阪大	15'29"87
7	大場直樹	東北大	15'31"69
8	濱田洋平	名大	15'38"75
11	東大貴	東大	15'55"88
14	山田竜也	東大	16'08"46

男子 110mH 決勝 (-0.7)			
1	中尾貴大	名大	14"84
2	岩崎辰哉	東北大	15"02
3	一ノ倉聖	東北大	15"22
4	酒谷彰一	東大	15"24
5	増本健太郎	東大	15"31
6	山内一将	九大	15"37
7	渋谷知暉	東北大	15"50
8	松崎通弘	大阪大	15"63

男子 110mH 予選 (2着 + 2)			
1組 (+0.8)			
2	増本健太郎	東大	15"53 Q
2組 (-0.7)			
1	酒谷彰一	東大	15"42 Q
3組 (+0.8)			
6	江間輝裕	東大	15"87

男子 400mH 決勝			
1	竹内敦	北大	53"32
2	小間洋和	大阪大	54"63
3	大橋正義	京大	55"36
4	赤木裕	東大	56"40
5	山内一将	九大	56"60

6	高木海平	東大	57"60
7	岩崎辰哉	東北大	59"16

男子 400mH 予選 (2着 + 2)

1組			
4	赤木裕	東大	57"00 q
2組			
3	酒谷彰一	東大	58"95
3組			
1	高木海平	東大	56"41 Q

男子 3000mSC 決勝

1	山根裕樹	大阪大	9'21"59
2	青木佑樹	東大	9'28"13
3	飯塚彬光	名大	9'32"13
4	平岡悠	名大	9'32"26
5	尾形翔平	東北大	9'37"29
6	不破佑太	京大	9'40"44
7	渡邊駿	東大	9'48"36
8	青木将大	大阪大	9'49"31

男子 4 × 100mR 決勝

1	京都大学	41"78
2	名古屋大学	41"91
3	東京大学	42"26
(増本-西田-真木-春日)		
4	大阪大学	42"32
5	東北大学	42"40
6	九州大学	42"68
7	北海道大学	42"83

男子 4 × 400mR 決勝

1	北海道大学	3'18"93
2	東北大学	3'21"72
3	東京大学	3'22"50
(春日-舩島-上松-大澤)		
4	大阪大学	3'22"78
5	名古屋大学	3'22"83
6	九州大学	3'23"28
7	京都大学	3'23"97

男子走高跳決勝

1	滝川憲	大阪大	1m95
2	竹内将人	北大	1m95
3	筒井保裕	大阪大	1m90
4	吉永光宏	大阪大	1m90
5	藤田光	北大	1m85
6	坂本智	東大	1m85
7	巳波壮馬	京大	1m80
8	地子智浩	東大	1m80
-	原湖楠	東大	NM

男子棒高跳決勝

1	高橋遼	大阪大	4m40
2	田中皓介	京大	4m30
3	細田真広	大阪大	4m00
3	小西康晴	京大	4m00
5	関原孝之	大阪大	3m40
5	藤井翼	東北大	3m40
-	原湖楠	東大	NM
-	土居富裕	東大	NM
-	松原洸也	東大	NM

男子走幅跳決勝

1	西村優汰	京大	7m45(+1.0)
2	西田昂広	東大	7m18(-0.7)
3	鈴木一輝	東北大	7m00(+0.9)
4	岡崎和貴	東北大	6m97(+0.4)
5	中野翔	大阪大	6m96(+2.8)
6	木佐貫翼	九大	6m70(+2.0)
7	岡野貴史	北大	6m68(+1.1)
8	伊藤隼平	北大	6m65(-0.1)
9	飯島靖成	東大	6m62(+1.0)
21	沢登良馬	東大	5m65(+1.9)

男子三段跳決勝

1	村井伸行	大阪大	15m09(+1.7)
2	勢力薫	大阪大	15m03(+2.4)
3	中野翔	大阪大	14m88(+1.2)
4	瀧澤翔太	東北大	14m34(+3.0)
5	西田昂広	東大	14m26(+0.3)
6	松田拓也	九大	14m23(+1.8)
7	岩崎辰哉	東北大	13m99(+2.0)

8	岡崎和貴	東北大	13m94(+2.1)
10	廣瀬彬	東大	13m69(+3.0)
12	定金駿介	東大	13m38(+2.4)

男子砲丸投決勝

1	柳澤邦彦	東北大	12m11
2	福井康大	大阪大	11m65
3	池田雄紀	大阪大	11m62
4	福井大輝	名大	11m22
5	鶴崎晋也	大阪大	11m01
6	奥谷啓太	名大	10m73
7	加舎敬太郎	北大	10m00
8	佐々木駿	東大	9m92
13	片山卓也	東大	9m14
15	原湖楠	東大	8m69

男子円盤投決勝

1	柳澤邦彦	東北大	40m40
2	佐々木駿	東大	38m63
3	松尾頼憲	名大	33m98
4	矢川勝太	京大	33m97
5	佐田純一	名大	33m56
6	太田祐輔	大阪大	32m26
7	福井康大	大阪大	32m17
8	岩田拓也	北大	31m65
9	片山卓也	東大	31m11
12	原湖楠	東大	29m23

男子ハンマー投決勝

1	池田雄紀	大阪大	45m50
2	太田祐輔	大阪大	43m56
3	武藤将大	大阪大	43m20
4	千葉伸宏	東大	34m23
5	矢川勝太	京大	33m73
6	柳澤邦彦	東北大	30m82
7	加舎敬太郎	北大	30m79
8	高橋源一郎	京大	30m12
11	河本大希	東大	22m59
13	今村昌平	東大	22m09

男子やり投決勝

1	杉本和志	東北大	64m72(NGR)
---	------	-----	------------

2	林翔太	京大	57m88
3	杉直晟	九大	56m38
4	磯村泰己	名大	54m95
5	矢川勝太	京大	50m08
6	宮田大輔	北大	50m03
7	川島龍樹	京大	48m51
8	永盛友樹	名大	47m34
14	千葉伸宏	東京大	44m64
18	山東誉英	東京大	39m85
19	原湖楠	東京大	35m09

男子トラック順位

1	名大	51
2	大阪大	47
3	東大	40
4	京大	39
5	東北大	23
6	北大	20
7	九大	11

男子フィールド順位

1	大阪大	68
2	東北大	30.5
3	京大	26.5
4	東大	16
5	名大	13
6	北大	8
7	九大	6

男子総合順位

1	大阪大	115
2	京大	65.5
3	名大	64
4	東大	56
5	東北大	53.5
6	北大	28
7	九大	17

女子100m 決勝 (-0.9)

1	澤村真由子	大阪大	12"77
2	成瀬葉香	名大	12"80
3	牛山綾	大阪大	12"93

4	加藤紫帆	名大	13"01
5	中山なつみ	東北大	13"21
6	釜谷美翔子	京大	13"21(着差あり)
7	久保木結	東大	13"30
8	下島千歩	東北大	13"49

女子100m 予選(3着+2)

1組(+0.8)			
3	久保木結	東大	13"29 Q
1組(+2.0)			
7	鈴木理香	東大	13"65

女子400m 決勝

1	牛山綾	大阪大	1'00"08
2	山根裕子	北大	1'00"99
3	岩橋優	京大	1'01"05
4	絹岡なずな	大阪大	1'02"03
5	村松沙那恵	名大	1'03"59
6	加奈山憲代	京大	1'02"22
7	坂楨有紀恵	北大	1'02"47
8	菅野裕美子	名大	1'03"27

女子400m 予選(3着+2)

1組			
7	杉本南	東大	1'16"13
2組			
6	鈴木彩夏	東大	1'06"73

女子800m 決勝

1	鈴木亜由子	名大	2'15"06
2	岩橋優	京大	2'16"82
3	及川まりや	東北大	2'16"96
4	歌津歩	大阪大	2'19"29
5	浜松由莉	東大	2'22"01
6	那須祐子	九大	2'24"64
7	福谷彩織	京大	2'28"89
8	増田有里子	東大	2'31"63

女子3000m 決勝

1	鈴木亜由子	名大	9'39"11(NGR)
2	安川由紀	大阪大	9'59"21(NGR)
3	高橋さやか	大阪大	10'17"21

4	那須祐子	九大	10'18"66
5	山本しおり	名大	10'39"03
6	鈴木はるか	東北大	11'15"05
7	千葉絵里子	東北大	11'28"10
8	鈴木恵美里	東大	11'30"05
10	杉浦奈実	東大	11'51"09

女子4×100mR 決勝

1	名古屋大学	50"02
2	大阪大学	50"39
3	北海道大学	51"20
4	京都大学	52"11
5	東京大学	52"79
(鈴木理-久保木-武田-高山)		
6	東北大学	53"14
7	九州大学	55"50

女子走高跳決勝

1	平松美咲	北大	1m51
2	木本早苗	大阪大	1m51
3	丹家理枝	東大	1m48
4	湯澤明夏	北大	1m48
5	久保木結	東大	1m48
6	加藤ほたる	大阪大	1m45
7	星麻沙美	東北大	1m40
8	西山佳代	名大	1m35

女子走幅跳決勝

1	高島知充	北大	5m32(-0.6)
2	加藤紫帆	名大	5m24(-0.4)
3	高山花子	東大	5m13(+0.7)
4	野中沙織	大阪大	5m04(-0.5)
5	木本早苗	大阪大	4m93(±0.0)
6	中山なつみ	東北大	4m78(+1.0)
7	春田みどり	名大	4m67(+0.6)
8	武田有希子	東大	4m50(+0.5)

女子砲丸投決勝

1	小中真由美	名大	10m90
2	河辺梨央	大阪大	9m15
3	武田有希子	東大	8m57
4	川守田優	大阪大	7m88

5	寺田遥香	名大	7m60
6	小林愛海	北大	7m57
7	勘林美帆里	北大	6m51
8	増本梨奈	京大	6m23
-	岩上佳世	東大	NM

女子トラック順位

1	大阪大	20
2	名大	16
3	京大	6
4	北大	5
5	東北大	2
6	九大	1
7	東大	0

女子フィールド順位

1	北大	9
2	大阪大	8
3	名大	7
4	東大	6
5	東北大	0
5	京大	0
5	九大	0

女子総合順位

1	大阪大	28
2	名大	23
3	北大	14
4	京大	6
5	東大	6
6	東北大	2
7	九大	1

2 2010年度部内5傑 2010.8.1 現在

*学年は2010/4/1時のもの

男子 100m

1	西田昂広 (4年)	10"81(+1.8)	8.1
2	春日慶輝 (3年)	11"02(+1.8)	8.1
3	菊池典晃 (2年)	11"27(+1.7)	8.1
4	真木伸浩 (2年)	11"51(-0.5)	4.25
5	増本健太郎 (4年)	11"52(-1.2)	4.25

男子 200m

1	西田昂広 (4年)	22"16(+0.1)	7.3
2	真木伸浩 (2年)	22"55(+0.1)	7.3
3	増本健太郎 (4年)	22"59(+1.4)	8.1
4	春日慶輝 (3年)	22"67(+0.5)	7.3
5	舩島一樹 (3年)	22"93(-1.1)	6.13

男子 400m

1	大澤涉 (2年)	49"53	6.13
2	舩島一樹 (3年)	50"99	7.3
3	上松祐太 (2年)	51"21	8.1
4	小松侑太 (3年)	52"34	6.13
5	水上雄太 (4年)	52"85	5.1

男子 800m

1	渡邊拓也 (4年)	1'55"98	5.30
2	園部竜也 (4年)	1'59"55	5.1
3	近藤堯之 (4年)	2'00"30	8.1
4	須田遊人 (5年)	2'00"98	6.27
5	池田剛志 (3年)	2'01"18	6.13

男子 1500m

1	東大貴 (3年)	4'00"59	6.13
2	大内田弘太郎 (2年)	4'05"99	8.1
3	池田剛志 (3年)	4'06"42	5.29
4	山田竜也 (3年)	4'06"83	4.17
5	渡邊拓也 (4年)	4'08"27	3.25

男子 5000m

1	宮野健司 (3年)	14'56"00	5.2
2	東大貴 (3年)	15'05"04	4.3
3	青木佑樹 (3年)	15'09"83	5.29
4	山田竜也 (3年)	15'21"04	4.18
5	渡邊駿 (2年)	15'36"18	5.30

男子 10000m

1	東大貴 (3年)	30'46"98	5.1
2	宮野健司 (3年)	30'51"94	5.1
3	青木佑樹 (3年)	31'42"51	5.1
4	大久保翔平 (2年)	33'16"65	5.1
5	中島圭一 (4年)	33'21"52	4.17

男子 ハーフマラソン

1	東大貴 (3年)	1:08'20"	5.23
2	宮野健司 (3年)	1:09'06"	5.23
3	青沼和幸 (2年)	1:20'22"	4.11
4	渡邊陽大 (2年)	1:25'36"	4.11

男子 110mH

1	酒谷彰一 (4年)	15"24(-0.7)	8.1
2	増本健太郎 (4年)	15"31(-0.7)	8.1
3	江間輝裕 (4年)	15"87(+0.8)	8.1
4	谷口尚史 (2年)	16"67(+1.1)	7.11
5	杉森康平 (1年)	17"25(?)	7.17

男子 400mH

1	酒谷彰一 (4年)	56"35	6.13
2	高木海平 (3年)	56"39	6.13
3	赤木裕 (4年)	56"40	8.1
4	増本健太郎 (4年)	57"03	7.17
5	江間輝裕 (4年)	57"46	6.5

男子 3000mSC

1	青木佑樹 (3年)	9'20"27	7.3
2	渡邊駿 (2年)	9'42"09	7.3
3	山田竜也 (3年)	9'54"75	7.3
4	岩川純也 (2年)	10'00"27	7.3
5	渡邊拓也 (4年)	10'07"12	4.11

男子 5000mW

1	早川晃司 (4年)	21'06"56	4.29
2	瀧川朗 (2年)	22'27"53	6.13
3	堀田樹生 (1年)	24'33"90	7.3
4	近藤健一 (1年)	24'46"17	7.3
5	井上雄介 (4年)	27'43"58	7.3

男子 10000mW

1	早川晃司 (4年)	43'57"57	3.25
2	瀧川朗 (2年)	46'23"46	3.25
3	井上雄介 (4年)	53'46"56	5.3

男子 走幅跳

1	西田昂広 (4年)	7m18(-0.7)	8.1
2	飯島靖成 (1年)	6m72(+0.0)	7.3
3	真木伸浩 (2年)	6m13(+0.8)	4.24
4	酒谷彰一 (4年)	6m08(+2.0)	4.24
5	沢登良馬 (1年)	5m86(+1.6)	6.13

男子 三段跳

1	西田昂広 (4年)	14m26(+0.3)	8.1
2	廣瀬彬 (5年)	13m37(+0.4)	7.3
3	杉森康平 (1年)	12m30(+0.7)	7.3
4	沢登良馬 (1年)	12m16(-0.2)	7.3

男子 走高跳

1	坂本智 (4年)	1m85	8.1
2	地子智浩 (5年)	1m80	8.1

男子 棒高跳

1	土居富裕 (3年)	3m60	6.13
2	原湖南 (4年)	3m50	4.3

男子 砲丸投

1	佐々木駿 (2年)	10m81	6.13
2	片山卓也 (2年)	9m64	7.3
3	原湖楠 (4年)	9m63	4.24

男子 円盤投

1	佐々木駿 (2年)	38m63	8.1
2	片山卓也 (2年)	31m98	5.5
3	原湖楠 (4年)	29m52	4.25

男子 ハンマー投

1	千葉伸宏 (4年)	34m23	8.1
2	河本大希 (1年)	22m59	8.1
3	今村昌平 (2年)	22m09	8.1

男子 やり投

1	千葉伸宏 (4年)	47m92	7.3
2	山元明人 (1年)	46m43	7.3
3	原湖楠 (4年)	40m77	4.3
4	山東誉英 (2年)	39m85	8.1
5	今村昌平 (2年)	33m34	7.31

男子 十種競技

1	原湖楠 (4年)	4806点	4.24-25
---	----------	-------	---------

女子 100m

1	久保木結 (2年)	13"27(-1.5)	7.3
2	鈴木理香 (2年)	13"65(+2.0)	8.1
3	高山花子 (4年)	14"41(-1.8)	4.3

女子 400m

1	久保木結 (2年)	1'04"63	4.18
2	浜松由莉 (2年)	1'05"94	5.5
3	鈴木彩夏 (1年)	1'06"02	7.3
4	鈴木理香 (2年)	1'06"03	4.10
5	高山花子 (4年)	1'08"98	5.1

女子 800m

1	浜松由莉 (2年)	2'22"01	8.1
2	増田有里子 (1年)	2'30"95	6.13
3	岩上佳世 (2年)	2'44"09	5.1
4	鈴木恵美里 (3年)	2'54"10	3.25

女子 1500m

1	杉浦奈実 (2年)	5'18"06	4.3
2	立岡美夏子 (2年)	5'18"25	4.3
3	杉本南 (1年)	5'24"79	7.3
4	鈴木恵美里 (3年)	5'30"65	4.25
5	岩上佳世 (2年)	5'32"60	7.31

女子 3000m

1	杉浦奈実 (2年)	11'07"70	5.1
2	鈴木恵美里 (3年)	11'13"75	7.3
3	立岡美夏子 (2年)	11'48"47	5.1
4	杉本南 (1年)	12'47"27	6.13

女子 100mH

1	久保木結 (2年)	15"12(-0.4)	7.3
---	-----------	-------------	-----

女子 走幅跳

1	高山花子 (4年)	5m13(+0.7)	8.1
2	武田有希子 (1年)	4m58(+0.5)	7.3
3	丹家里枝 (2年)	3m74(+0.3)	7.3

女子 走高跳

1	丹家里枝 (2年)	1m48	8.1
1	久保木結 (2年)	1m48	8.1

女子 砲丸投

1	武田有希子 (1年)	9m10	6.13
---	------------	------	------

女子 円盤投

1	武田有希子 (1年)	34m70	6.13
---	------------	-------	------

女子 やり投

1	武田有希子 (1年)	23m05	6.13
---	------------	-------	------

3 自己記録更新者一覧 2010.7.4~8.1

*F は予選決勝ともに自己記録を更新した場合の決勝のタイム

7/11 第30回平成国際大学競技会

110mH	谷口尚史 (2年)	16"67(+1.1)
-------	-----------	-------------

7/31,8/1 第61回全国七大学対校陸上競技会

100m	西田昂広 (4年)	10"82(+0.6)
100m	西田昂広 (4年)	10"81(+1.8)F
100m	春日慶輝 (3年)	11"03(-0.4)
100m	春日慶輝 (3年)	11"02(+1.8)F
100m	江間輝裕 (4年)	11"69(+1.5)
100m	桜井駿 (1年)	13"08(-0.9)
200m	増本健太郎 (4年)	22"59(+1.4)
800m	近藤堯之 (4年)	2'00"30
800m	浜松由莉 (2年)	2'22"01
1500m	大内田弘太朗 (2年)	4'05"99
1500m	鳶田洸一 (4年)	4'19"04
1500m	岩上佳世 (2年)	5'32"60
5000m	川端紘介 (4年)	18'14"61
110mH	増本健太郎 (4年)	15"53(+0.8)
110mH	増本健太郎 (4年)	15"31(-0.7)F
走高跳	地子智浩 (5年)	1m80
走幅跳	西田昂広 (4年)	7m18(-0.7)
三段跳	西田昂広 (4年)	14m26(+0.3)
円盤投	佐々木駿 (2年)	38m63
ハンマー投	千葉伸宏 (4年)	34m23
ハンマー投	河本大希 (1年)	22m59
ハンマー投	今村昌平 (2年)	22m09
やり投	山東誉英 (2年)	39m85
やり投	今村昌平 (2年)	33m34

4 主務より

4.1 応援OB・OG紹介

7月31日(土)・8月1日(日)に、瑞穂公園陸上競技場にて行われました七大戦に際し、応援に駆けつけて下さったOB・OGの皆様のご氏名を報告いたします。(敬称略)

1960年卒	笹治峻
1968年卒	小林寛道
1968年卒	湯浅味代士
1974年卒	辻本誠
1976年卒	田上静之
1976年卒	手塚育志
1979年卒	中谷敬二
1982年卒	室城信之
1983年卒	小林徹
1983年卒	八田秀雄

1984年卒 渡辺吏
 1991年卒 小野満
 1994年卒 工藤麻衣子
 2001年卒 岡野浩行
 2001年卒 新妻拓弥
 2001年卒 普光真生
 2003年卒 小山剛史
 2003年卒 橋本武
 2004年卒 熊丸拓郎
 2007年卒 片岡哲朗
 2007年卒 小原明恵
 2007年卒 竹内昌男
 2007年卒 三好信哉
 2008年卒 板倉祥哲
 2008年卒 片山芳明
 2008年卒 持永新
 2008年卒 山本祥
 2008年卒 山本卓典
 2009年卒 梶井駿介
 2009年卒 小福田大輔
 2009年卒 武安光太郎
 2009年卒 田中裕一郎
 2009年卒 藤本元太
 2009年卒 松本光一
 2009年卒 割澤高行
 2010年卒 荒井博貴
 2010年卒 日下桃子
 2010年卒 楠木千尋
 2010年卒 坂井啓一
 2010年卒 西川鋭
 2010年卒 横田祥

ご多忙の中、お越し下さいましたことに現役部員一同、心より御礼申し上げます。

4.2 行事予定

- 一橋戦 (主管)
9/4(土) 駒場グラウンド
- 日本インカレ
9/10(金)・11(土)・12(日) 国立競技場
- 関東大学女子駅伝
9/26(日) 千葉・印西市

- 京大戦
10/9(土) 京都・山城
- 箱根駅伝予選会
10/16(土) 国立昭和記念公園
- 第12回東大競技会
10/30(土)・31(日) 駒場グラウンド
- 第1回ディスタンスチャレンジ
11/28(日) 駒場グラウンド

4.3 連絡先 (慶弔等)

慶弔のご連絡は下記連絡先までお願い申し上げます。

総務委員長:田上静之

TEL : 03-3835-6792

(凸版印刷株式会社経営監査室)

E-mail : seishi.tanoue@toppan.co.jp

学生主務:早川晃司

〒181-0013 東京都三鷹市下連雀 3-39-11

TEL : 090-5761-9980

FAX : 0422-47-8726

E-mail: shumu@utf.org

この部便りは下記 web ページでもご覧になれます

<http://www.utf.org/>

また、現在、陸上運動倶楽部のメーリングリスト「utf club」にて、大会結果の速報および部便りのメール送付等を行っております。メーリングリストへの登録をご希望の方、もしくは部便りの郵送不要の方は、お手数ですが学生主務までご連絡下さい

主務 早川晃司

文責 : 木内久雄